

...30年の歩み...

大阪建設機械リース協同組合
副理事長 長井 三佐夫



戦後の国土復興がようやく軌道にのり始めた昭和27年ごろ、資金力や品簿であった機械の調達力の弱い中小企業者の要求で、わが国で初めて大阪で建設機械の賃貸（レンタル）が始まりました。

その後、業者も増え昭和32年に全国初の建設機械リース・レンタル業の団体「大阪建設機械商

組合」として大阪府知事の認可を受け、初代理事長に姫野通雄氏が就任し、14社で待望の組合活動がスタートしたのであります。

昭和37年には創立5周年の式典を開催。昭和38年、故脇田竹広氏が理事長に就任。そのあいさつの中で「今後組合員の増加と全国組織の結成を図る」ことを強調されました。

業界団体の基盤を確立

昭和43年には、大阪通産局の認可を受けて「大阪建設機械リース協同組合」に改組し、組合員の地域も近畿2府4県にまたがる名実ともに業界団体としての基盤を確古たるものとしたのであります。

一方、全国組織の編成については、全国の地区協会と緊密な連繋を図りながら積極的に話し合い、昭和45年その設立を実現。大阪商工会議

所において盛大に「全国建設機械リース業連合会」の発会式を挙行し、初代会長には故脇田竹広氏が就任され、耐用年数の短縮化、社団法人化および登録制の実現を目標に掲げて積極的に連合会活動を推進してまいりました。

昭和49年、脇田竹広氏の他界により志茂坂敏氏が理事長に就任。

昭和52年、大阪コクサイホテルにおいて創立

20周年記念式典を盛大に開催。組合役員功労者と永年勤続従業員の表彰を行い、組合意識の向上をはかりました。当時、組合合 85 社、賛助会員 37 社でした。

昭和 53 年、永田仁作氏が第 4 代理事長に就任し、建設機械整備技能検定試験等、組合員の研

修と地域割のブロック会を編成し、ブロック会議を通じて相互の親睦・協調活動を積極的に展開いたしました。

昭和 57 年、渡辺昇氏が理事長に就任し、中小企業近代化促進法の特定業種指定の適用ならびにその準備に着手しました。

“ 諸施策を積極的に推進 ”

昭和 59 年、佐川重徳氏が理事長に就任し、ブロック会と併せて主要取扱品別に 6 委員会を設けて、近代化促進法に基づく構造改善事業、可搬形発電機整備技術者養成ならびに社員の定着化および老後保証を豊にする厚生年金基金の導入、さらに登録制の施行にともなう諸施策を推進中であり、現在、組合員は 130 社、賛助会員は 31 社です。

前述のごとく歴史の短い建設機械リース・レンタル業界が今日このように成長し、建設関連産業として建設事業の発展に奇与できるようになったことを思う時、諸官庁のご指導、建設業界のお引き立てに対し厚くお礼申し上げますとともに、先輩諸士の努力と先兄の明に改めて深甚な敬意を表します。